

科目名	法学入門 Legal Literacy						
科目担当者	大久保 哲 OOKUBO Satoshi						
単位数	2	配当年次	1年	授業形態	講義	開講学期	前期
履修学部・学科 [区分]	法学部・法律学科 [専門教育科目 基礎専門科目]					ディプロマポリシーとの関連	(2)(3)
授業の概要	<p>(1) 法学部で法学を学ぶに際して、各種法分野に共通の基本的な学びのあり方と知識の習得を目的とする。特定の法分野に限定することなく、前提としての近代法思想とその諸原則・諸原則、また基本的知識として我が国の司法制度を取り扱う。</p> <p>(2) 様々な分野の法学を学ぶために必要な基本的な常識や知識を身に着けるための授業である。そのため、卒業に必要な必修科目である。</p>						
授業の到達目標	<p>①近代法理解の前提となる法学の基礎を理解する</p> <p>②近代法の諸原則、権利と人権・義務の意義、法の分野と体系、司法制度についての常識と知識を身に着ける</p> <p>③法律を「自分事として理解する」ことを訓練して身につける</p> <p>④4年間法学部で学ぶための基本的知識・常識が身につく</p>						
授業計画・内容	1	大学での学びについて、法学学修の準備（学ぶことは考え続けることである、法学に正解は存在しない）					
	2	近代法思想、自由と平等の理念、個人主義					
	3	法と社会、永遠・普遍的理念と法、法と道徳、法と宗教					
	4	法情報学、法の情報源に関するリテラシー、インターネット・AIと法、各種メディアと法					
	5	法の分野、法の解釈、法解釈の種類と方法、法と現実社会					
	6	社会的な法資源（法的リソース）とアクセスの方法					
	7	日本国憲法の原理、国家論（国家の存在意義）					
	8	日本国憲法の理念の現実、法の理念と現実					
	9	法と正義、法と犯罪、法とサンクション（制裁）、法の実現方法					
	10	家族生活と法、子どもと家庭、家族と国家、家族と社会					
	11	労働と法、生存権、労働者の社会的・法的位置付け					
	12	刑事法概観、犯罪と刑罰の基本的な考え方					
	13	国際社会と法、国際法、戦争と法					
	14	法と実践、法の用い方と法の社会的効用					
	15	まとめと今後の法学学修の発展（学期末レポートを実施する。学期末定期試験は実施しない）					
授業外学修 (事前学修)	<p>Moodle 上に掲載する授業レジュメを必ず前日までに読んで考えて授業に臨むこと</p> <p>レジュメ内の語句の意味やレジュメの内容について自分で調べて考えておくこと</p> <p>授業中に改めて授業レジュメを説明することはしない</p> <p>前日までの事前学修（予習）を怠る受講生は授業時間を無駄に費やす覚悟が必要である</p>						
授業外学修 (事後学修)	<p>授業を聞いて考え、毎回配布するその回の課題のペーパーについて考えて回答を書き入れて作成・完成させる。完成した課題を次の授業の開始前に教卓の上に提出する</p> <p>かける時間は各自の学修能力とやる気と熱意に左右される</p>						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法				評価比率		到達目標との対応
	毎回の課題の作成・完成と提出				50%		①、②
学期末レポート（筆記試験は実施しない）				50%		①、②、③、④	
成績評価基準	<p>秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合</p> <p>優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合</p> <p>良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合</p> <p>可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合</p> <p>不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合、学修意欲のうかがわれない者</p> <p>・毎回の課題と学期末レポートを提出して、双方が十分に満足できる内容であること</p>						
教科書	Moodle に掲載するレジュメと資料						
参考文献	その都度案内する						
その他	毎回パソコンを持参してインターネットに接続する。授業中は、パソコンやスマートフォン・タブレット等の情報機器や AI を駆使して調べて理解の助けとなる情報を積極的に収集する。						